

## 2月に向けて

代表取締役 三田雅憲

今月は、「超前向きモチベーター」を自称する和田勉氏の「コミュニケーション能力はリーダーの武器である。」から学びたいと思います。

「会社には、年齢も背景も性格も違う人たちが「仕事を行う」という共通の目的の為に集っています。この人たちをまとめて目標に向かって前進していくには、「苦手な人とも向き合う覚悟」「衝突を恐れない胆力」「相手に合わせる柔軟力」などが必要です。社員の心を動かさないリーダーに組織やチームは動かさない。リーダーが苦勞するのが「チーム社員の前で語る」ことです。特に中小企業には、チーム社員の前で自分の言葉で語れないリーダーが多くおられるように思います。「声に熱量がない」「抽象論ばかり」「チーム社員の前を見て話さない」「上司がこのように言っていたから」ではダメなのです。本人の覚悟や、責任・本気がにじみでた言葉を発しないとイケません。チーム社員は、リーダーの背中と言葉を見て様々な判断をします。そのためリーダーはコミュニケーション能力を高める必要があります。また、同様以上に重要なのは相手の話を「聴く力」です。「自分に対する厳しい指摘」や「耳の痛い改善点」「年上の社員や上司からの苦言」「外部顧客からのクレームや改善依頼」これらを真正面から受け止められるリーダーは成長します。苦言を素直に受け入れられる人には、人がついてきます。私も若い頃「怒られた回数が、そのまま成長曲線になる」という真実を嫌というほど味わいました。リーダーは「厳しい声に耐えられる器」を身につけてください。信用・信頼は「コミュニケーションの賜物」会社は信用と信頼を失った瞬間に終わります。信用とは、過去の行動・行為に対する評価。信頼とは、未来への期待・評価。この2つを積み重ねるためには、結局のところコミュニケーション能力が必要なのです。仕事や人間関係・その他において「約束を守る」「誠実に向き合う」「言いにくい事をきちんと伝える」「相手の立場で考える」こうした積み重ねが信用を生み、丁寧な関わり方が信頼を生みます。リーダーには「コミュニケーションを軽く見ない姿勢」を徹底的に育ててください。会社を支えるのは人。その人を動かす力こそ、リーダーに必要な能力です。」

と述べられています。近年、自主的に考え確認の上、行動をされる社員が当社には増えてきており、これは素晴らしいことであると思います。このような社員が増えていき、また、リーダーもそれ以上の器で対応できる会社こそが、これから社会に求められる会社像であると思います。